

みらい
すくすく
通信

464号

この通信に掲載の野菜のお届け日

2020 年 9 月 14 日～9 月 18 日

いつも有機野菜をお買い上げありがとうございます。
毎週、旬の情報を伝えします。



新規就農物語

③安平、有機農園 HUMAN NATURE (ヒューマンネイチャー) <後編> ～ポスト資本主義時代の遺伝子たち～



～ HUMAN NATURE (人間の本質) ～

2016年9月、20年近く勤めていた会社を退職した土屋さん。突然であったため転職の準備をしているはずもなく、ここでイチから農家への道を探り始めました。翌年が子どもたちの学校が切り替わるタイミングでもあったため、そうそうゆっくりもできません。有機農業の機関を回り、札幌近郊で研修先を模索しました。といっても当初は研修が必要なことすら知りません。いくつか候補がありました、「研修はするが独立は自分次第」などと、あまり歯切れのいい答えはありませんでした。そんな中、「研修を受け入れるからには、就農まで責任を持つ」と言い切った農家がひとりだけいました。それが小路組合長。土屋さんの思いはこの出会いで固まりました。その後安平を家族で訪れ、正式に申込みをし、12月には受け入れが決定。2017年4月、晴れて安平での有機農業研修がスタートします。年齢的にこの年が就農補助金の支給されるラストイヤーでした。何かに導かれるようにトントン拍子に事が進んでいきました。

研修は先の二人同様、初年度が無何有的郷農園の補佐、2年目はいくつか畠を借りての並行作業です。先の二人同様、とんでもなくキツかったでしょう?と訊くと「体は確かに大変でしたが(笑)、心は喜

んでいました。嗚呼、オレは今生きている! そんな感じ」。

独立にあたり、農場名は HUMAN NATURE (人間の本質) に。HUMAN の語源は HU「土の」上の MAN「知性」。自分の名前に「土」があり、人間の本質として、土を離れては生きてはいけないという、辛い時期に学んだ大切な教えとして、ネーミングに込めました。主な作物はホウレンソウ、ナス、インゲン、コリンキー、カボチャ、そしてサツマイモ。「ホウレンソウは岩見沢の林さん、ナスは白石さんが教えてくれました。こういうのは有機農協のネットワークの強みだと思いますし、新規就農する者にとっては作ることに専心できるので農協は本当に大きな存在です。防除については安平の俣野さん、ハウスの建て方は新戸部さんなど、同じ地域で気軽に聞ける人たちがいるのも心強い限り。そしてみんな研修後は仲間として接してくれる。それがホントにありがたい」。作付けは、そんな有機農協に恩義があるからと、農協として足りないという野菜を選択し、それ以外にひとつだけ故郷、千葉の名産であるサツマイモを選びました。昨年も人気を博したベニハルカとシルクスイート、二年目の味に期待が膨らみます。

「自己の生の奪還」

就農研修の受入をする安平、無何有的郷(むかうのさと)農園、小路組合長のもとへ、2011年、2014年、2017年と3人の青年がその門をたたき、それぞれがその後、安平で新規就農を果たしました。新規就農者のストーリーを、それぞれの野菜へのこだわりと合わせて紹介したシリーズも今号が最終章。有機野菜を志した彼らの今後を、これからも温かく、時には厳しく見守っていただけたらと思います。

◀ 2町弱(約140m四方)の畠のうちサツマイモは1反(約30m四方)。1年目は忙しく昼食はとれませんでしたが今年は食べていると

▼ カボチャは1町分(約100m四方)。雑草は時間がある限り取るそうですが、手が回らないよう



▼ ハウス7棟のうちナスは2棟。昨年は定植の前日に完成



私たちの生活を形づくり、当たり前のように存在してさまざまな恩恵を享受させてくれた資本主義の時代も、長い人類の歴史の中ではほんの数百年の話。これからは価値観も、働き方も、生活スタイルも、これまでとは全く違う環境が訪れるかもしれません。ただどんな境遇にあったとしても、「生きる」という主体的な一歩もまた HUMAN NATURE (人間の本質) のひとつであり、私たちの中心にある遺伝子なのだ、そう教えてもらいました。

ベートーベンの「田園」が流れる安平の一角、土屋さんの目の前には、鏡の世界ではなく、自らの目で見る、今の現実、鮮やかな世界が広がっています。

<新規就農物語 完>